

小学部「算数」学習指導案

1. 日時 令和7年11月6日(木) 第2時限(10:00~10:40)

2. 場所 小学部第2学年2組教室

3. 学部・学年・組 小学部 第2学年 6人

4. 単元(題材)名 「いくつかな？」

5. 単元(題材)目標

- ・1から5までの具体物の数を数えることができるようにする。【知識及び技能】
- ・数を数えること、数量として捉えること、数詞と数字を対応させることを、ボウリング遊びの中でできるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・あそびを通して数に興味をもって学ぶ態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

6. 児童観 【略】

7. 教材観

本単元で扱う「かずをかぞえよう」は、数量の学習の基礎となる単元であり、「数える」という行為を通して見た物の数と数詞を対応させていくことをねらいとしている。小学部1~2段階の学びにおいては、実際に物を見たり、触れたり、動かしたりする具体的な経験を通して理解することが重要となる。そこで本単元では、ボウリングを通して、遊びの中で数に親しめるようにする。ボウリングという遊びの要素を取り入れることで、児童が楽しみながら自然に数に注目できるようにする。本来のボウリングのルールでは倒れたピンを数えるが、第一次ではピンに注目を集めるために、倒れたピンよりも残っている(倒れなかった)ピンを数える。そして、児童の実態に合わせて1段階の児童にはピンを3本、2段階の児童には5本並べ、ボールを転がして倒れなかったピンの数を一つずつ丁寧に数える活動を行う。第2次と第3次では、児童が授業の流れやボウリングに親しみを持つことで、これまで注目の薄かった「倒れているピン」にも関心が生まれることから、「倒れた数」に関心を向けて、数える活動を行う。第4次では、「倒れた数」に加えて「次に倒す(立っている)数」にも関心を広げていく。まず、倒れたピンの数に注目し、実際に数えた結果を表に整理する。その後、表をもとに「次に倒す(立っている)数」を確かめ、実際にその数だけピンを並べてみる。こうした活動を通して、倒れた数と倒れなかった数の関係に気づき、2回のボウリングを通してすべてのピンを倒せるようにする中で、数量の変化を実感的に理解できるようにしていく。

これまでの授業を通して、遊びの中で用いる具体物の一つずつ数えられるような補助教材を提示することで教員と一緒に丁寧に数えることができるようになってきた。ピンを数える際には、ピン立てを使用して児童が一つずつピン立てに入っているピンを指差しながら数を数えることができるようにする。「いち、に、さん…」と数えることで、実際の物の数と数詞とを対応させる経験を積むことができる。また、ピンを数えた後に、同じ数の「ボウリングピンカード」を表に貼る活動を取り入れる。ピンカードを貼り「いち、に、さん…」と数えながら、一つずつ丁寧に具体物の数と数詞との一対一対応を意識できるようにする。さらに、ピンカードを数えた結果を数字カードと対応させ、表に貼ることで、数量と数字の関係を視覚的・実感的に捉えることができるようにする。このように、数詞と対応して「ピン(具体物)」「数字カード」「ピンカード」と具体から抽象へと段階的に対応づけることで、「いくつ」という感覚を具体的に感じ取ることができる題材である。と考える。

8. 指導観

本単元では、「倒れた数」や「残った数」といった数量に関心をもち、自分の目で見た数を一つひとつ丁寧に数える活動を通して、「数えることの楽しさ」や「数詞と数量変化の対応」を体感的に理解していく力を育んでいきたい。

本グループの学習では、これまで「あいさつ」「出席確認」「遊びの中で数える」という流れで授業を進めてきたが、本単元でもその流れを踏襲する。

第1次「ボールを転がしてピンを倒そう」では、教員の手本を見たり、友だちの様子を見たりする中で、ピンが倒れたり、残っていることへの関心を高める。倒れなかったピンの数を一つずつ指差しながら数える場面を設け、「数える」という行為に意識を向けられるようにする。本次は数への導入段階であり、まずは倒れなかったピンを手に取り、教員が数唱を添えて丁寧に数えられるよう支援していく。そして、「次はこの〇本倒そうね！」と次の自分への番への意欲と、数への興味を持たせる。

第2次の「ピンの数を数えよう①」では、児童自身が実際にピンを数える活動を中心に行う。本次では、ボウリングをする順番や役割（ピンを並べる係・ボールを渡す係など）を与えて主体的に関われる場面を設定する。ピンを数えやすいようにピン立てを使用し、一つずつ指差しながら数えることができるように支援する。また、テンポをゆっくりにして、指差しと数詞が一对一对応になるようにし、倒れたピンを一つずつ指で押さえながら「いち、に、さん」と児童全員で数え、数えた結果は数字カードと対応させて表に貼り、数量と数字の関係を視覚的に捉えられるようにする。倒れた数と数字カードを対応させて表に貼る活動を通して、「数量」と「数詞」、「数字」の対応を経験的に理解できるようにする。倒れたピンの数が増えることで、児童は自然と様々な数字に触れ、数への興味を深めていけるようにする。

第3次の「ピンの数を数えよう②」では、「ピンの数を数えよう①」の活動内容を踏襲しながら、倒れたピンに注目し具体的に数を捉えられるよう、1本・2本・3本・4本・5本を立てられるピン立てを追加で用意する。第1段階の児童や「数量」の領域に課題がある児童には、倒れたピンの数だけ入るピン立てで数えられるようにして、具体物(量)を捉えられるように支援していく。第2段階の児童にはボウリングをして倒れたピンの数をピン立てで数える前に、「何本倒れているかな？」と問いかけ、目で数を捉える時間を設ける。児童の答えと実際に倒れている数が異なる場合には、それぞれのピン立てを使って確認しながら、感覚的に「自分が思っていたより多かった」「少なかった」といった気づきを生み出せるようにする。また、ボウリングをしていない待機中の児童には、サブティーチャーと一緒にピン立てに入っているピンに触りながら数を確認させ、活動に参加しつつ数に触れる機会を確保する。こうした活動を通して、児童が「見る」「触る」「数える」といった多様な感覚を使いながら数量を実感的に捉え、数に対する興味や理解をさらに深められるようにする。

第4次「あと何本？」では、第2次と第3次で扱った「倒れた数」に加えて、「次に倒す(立っている)数」にも関心を広げる。倒れたピンの数と倒れなかったピンの数を比較する活動を通して、数量を相対的に捉える力を育てる。本次では、まず倒れたピンの数を数え、その数と同じ数字カード貼り、同じ枚数のピンカードを表の別欄に貼り対応させる。次に、最初に並べられていたピンの数をピンカードで数え、その数に対応するカードを別の欄に貼る。最後に、2つの欄を見比べながら「倒れた数」と「次に倒す(立っている)数」の違いに気付けるようにする。また、表に貼られたピンカードを基に「倒れなかった数」のピンを児童自身で並べ、2回めのボウリングを行う。これにより、1回めと2回めの活動を通してすべてのピンを倒すことができ、達成感を味わえるようにする。

このように、実際に目の前で変化するピンの数を操作的に確かめながら、「数える」行為が状況に応じて変化することを経験的に理解できるようにする。児童の反応を見取りながら、必要に応じて教員が言葉かけやジェスチャーで支援し、「いくつ残っているかな?」「こっちは何本かな?」などのやり取りを通し

て児童自身が考えようとするように促す。さらに、残った数や元の数を数字カードと対応づけて表に整理することで、数量の関係性を視覚的に捉えやすくする。

本単元を通して、児童が「数えることができた」「わかった」と感じられるような成功体験を積み重ね、数に親しみ、数量の変化や関係を捉えようとする力を育てていきたい。また、活動中のやり取りや称賛の言葉かけを通して、児童一人ひとりが安心して活動に参加できる雰囲気大切に、数の学習を「楽しい」「またやりたい」と感じられるような授業づくりをめざしたい。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 数詞等を声に出しながら、ピンを手でさしている。 ② 倒れたピンを数量（1 から 3 まで）として捉えている。 ③ 倒れたピンの数や数えた数に対応した数字カードを選んでいる。	① ピンの数を数える際に、指差しまたは手で触って、数詞と対応させながら、数えている。 ② 数詞とピン（ピンカード）の数、数字の関係性に気づき、数詞から数字を選んだり、数字からピンの本数がわかったりしている。	① ボウリングの活動に興味を持ち、楽しみながら数に親しもうとしている。 ② 自分の考えや気づきを伝えようとしている。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全 12 時間、本時は第 8 時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1 次	1 2	・ボウリングで遊ぶ	・ピンを並べる、ボールを転がしてピンを倒すというボウリングの一連の流れを楽しむ。	・ボウリングという遊びに親しみ、楽しく活動できるようにする。 ・立っているピンや、倒れたピンを見て、見た目の数量の違いを感じられるように支援する。 ・次はたくさん倒したいという量を意識した学習意欲を育む。	C①
2 次	3 4	・ピンの数を数えてみよう①	・倒れたピンを一本ずつ指さしながら数える。 ・数えた数と同じ数字カードを選んで表に貼る。 ・数えた数のピンカードを表の別欄に貼りながら、数詞を確認する。	・指差しと声に出す数詞を丁寧に合わせ、一本ずつ数えられるようにする。 ・教員のヒントをもとに、児童が自分で数えた数と同じ数字カードを選んで貼ることができるようにする。 ・倒れたピンが何本なのかを、ピン立てや表を使って確認できるようにする。	A①③ B① C①

3 次	5 └ 8	<ul style="list-style-type: none"> ・ピンの数を数えてみよう② 	<ul style="list-style-type: none"> ・倒れたピンを一本ずつ指さしながら数える。 ・1 から 5 までの倒れたピンの数を捉える・数える。 ・数えた数と同じ数字カードを表に貼る。 ・数えた数のピンカードを表の別欄に貼りながら、数詞を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指差しと声に出す数詞を丁寧に合わせ、一本ずつ数えられるようにする。 ・倒れているピンが何本かを見て捉えるよう促したり、ピン立てや表を使って何度も確認できるようにしたりする。 ・数量と数字の関係を視覚的・実感的に捉えることができるようにする。 	A①②③ B① C①②
4 次	9 └ 12	<ul style="list-style-type: none"> ・あと何本？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・倒れたピンの数を記録した表をもとに、倒れなかったピンを数える。 ・表から残っているピンの数を確認し、2 周めのボウリングを行い、1 周めと 2 周めで合計してすべてのピンを倒す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・倒れた数と残った数を見比べ、「まだ倒せるピンがある」などの気づきを引き出すよう言葉かけをする。 ・具体物操作の中で数量の関係を感じ取れるようにする。 	A①②③ B①② C①②

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・教員からのヒントやピン立てをもとに、倒れたピンの数を 1 本ずつ数えることができる。
- ・倒れたピンの数を 1 本ずつ数えた数（数詞）と数字カードを対応させることができる。

【知識及び技能】

- ・数を数えること、数量として捉えることが、ボウリング遊びの中でできる。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 本時の評価規準

- ・数詞等を声に出しながら、ピンを手でさしている。(A①)
- ・倒れたピンの数や数えた数に対応した数字カードを選んでいる。(A③)
- ・ピンの数を数える際に、指差しまたは手で触って、数詞と対応させながら、数えている。(B①)

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・モニター、タブレット端末
- ・ピン立て
- ・スコア表
- ・数字カード、ボウリングピンカード
- ・ボウリングセット
- ・シール

(4) 児童の実態と本時の目標 【略】

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
5分 導 入	<p>○あいさつ</p> <p>○本時の予定を確認</p> <p>○出席確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前で挨拶をしたい児童を募り、手を挙げた児童に、前に並ぶように促す。 ・見通しがもてるよう、本時の授業内容をモニターに映し、一緒に確認する。 ・出席確認を行い、授業が始まったことを意識できるようにする。 	
30分 展 開	<p>○ボウリングで数えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倒れたピンに注目するようにルールを確認する。 ・ボウリングをする順番と役割を決める。 <p>○ボウリングをして倒れたピンの数を数える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボウリングのルールをシンプルな動画を使用して、教示する。動画の中で、倒れたピンに数字を重ねることで、本時では倒れたピンに注目することを意識づける。 ・「何番め?」「自分は誰の次?」など順番を意識づけるため、ガチャガチャアプリでその都度順番を決めるのではなく、最初に全員の順番が決まるように設定する。 ・Aは倒れなかったピンを集める係、Bはボールを渡す係、Fはピンをかごに集める係といった役割を与えて、自分がボウリングの順番でないときでも、ボウリング遊びに主体的に関わる機会を設定する。 ・倒れたピンを数えやすいようにピン立て（倒れた数に応じたピン立て）を使用し、左から一つずつ指差しながら数えることができるようにする。 ・小学部第1段階の児童や「数量」の領域に課題がある児童には、倒れたピンの数だけ入るピン立てで数えられるようにして、具体物(量)を捉えられるようにする。 ・小学部第2段階の児童には「何本倒れているかな?」と問いかけ、目で見て数を捉える時間を設ける。それぞれのピン立てを使って確認しながら、「多かった」、「少なかった」といった気づきを生み出せるようにする。 	<p>A①②③ (行動の観察)</p> <p>B① (行動の観察)</p>

	<p>○数えたピンの数と同じ数字カードを表に貼る。</p> <p>○並べられているピンの数を表とピンカードを使って確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倒れたピンと同じ数のピンカードを表の別欄に貼る。 ・表で確認する児童以外は、ピン立てに立っているピンを実際に触って、数を数え、倒れたピンの数を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数える際には、指差しと数詞を一対一対応で行えるよう、テンポをゆっくりにして数を数えられるようにする。 ・数を数えた後、改めて「倒れたピンは何本？」と問いかけ、児童が言った数詞と同じ数字を選ぶよう促す。 ・「数字カード」「ピンカード」を用いて、具体物の数、数詞、数字を対応づけられるように表で確認する。 ・待機している児童には、STと一緒にピン立てに入っているピンを触りながら数を確認できるようにし、活動に参加しつつ数に触れる機会を確保する。 	
5分 ま と め	<p>○振り返り</p> <p>○終わりのあいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表を確認し、多くのピンを倒した児童を称賛して活動への意欲につなげる。 ・前で挨拶をしたい児童を募り、手を挙げた児童に、前に並ぶように促す。 	

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）

